

農林水産省大臣官房長賞

『給食は心のかけはし』

鹿児島県始良市立永原小学校 四年 女子 猿樂 にご

「今年はきんぴらだ。」

わたしたちの市では、毎年「物語レシピをいただきます」というイベントが行われています。本に出てくるメニューが実さいの給食に出るといっておもしろいイベントです。

四月の終わり。市立図書館の方が来てくださって、物語レシピの読み聞かせがありました。今年は「きんぴらきょうだい」というお話でした。ごぼうとにんじんが兄妹で、きんぴらになるために、いろいろな人をたずねるといってお話です。最後は、ねずみのお母さんがきんぴらを作ってくれます。どんな味のきんぴらが給食に出るかとても楽しみにになりました。

いよいよ給食の時間。赤いにんじんと、味がよくしみこんでいそうなごぼう、そしてお肉が入ったきんぴらが登場しました。遠くにいてもおいがしきて、

「今日のきんぴら、いいにおい。おいしそうだね。」

と友達が耳元でささやきました。わたしも早く食べたくて食べたくて仕方ありませんでした。みんな

「きんぴらは、ぜつたいごはんに合うよね。」とうれしそうです。じゅんぴが終わってみんな手合わせてました。

「いただきます。」

いつもより明るい声でみんなが言うと、その後は、はしを動かす音だけが聞こえてきます。もく食なので話はできないけれど、きんぴらを食べるみんなの顔は、にっこりえ顔に見えました。会話はなくても、「おいしいね。」という心の声がどんどんあふれてくるのが分かりました。

わたしは、毎日の給食が楽しみです。特に、行事やイベントに合わせたメニュー、特別なメニューのときは、クラスでも話題になります。わたしたちのためにいろいろ考えてくださっている栄養教員の先生や、何百人分もの給食を作ってくださいている調理しの方々には、いつも感しゃしています。給食には、わたしたちの住んでいる地いきで育った野菜や、鹿児島県でとれた食材がたくさん使われています。だから、わたしたちがいつも元気でいられるのだと思います。コロナが広がり、マスクをはずしている時間は、お話ができません。でも、給食の時間は、

「おいしいね。どれが好き。」

などと心の中で会話することができると大切な時間です。

わたしたちの心と心をつなぐ給食。給食のおかがで、たくさんのメニューも知ることができ、料理が出てくる本も手に取ることがふえました。給食からかかった「はし」をわたると、いろいろなことに出会えます。給食への感しゃの気持ちとそこからつながる新たな発見を大切にしていきたいです。